

フロンティアスピリッツ 先人の開拓精神

TWUI

『ワイトゥイ』

ワイトゥイは、勝連平安名南西部（比殿原、嘉慶名久）の農耕地に通じる断崖を掘削した農道です。長年、村人は比殿パンタの急崖の険阻な山道を登り降りしていましたが、この苦難を解消するために、昭和7年から同10年にかけてこの断崖を掘削、横断農道を開通させました。長さ約150m、高さは最高所で20mもあります。当時のトゥングエー（金鍬）や、カニガラ（石割棒）などを駆使した人々の難工事の跡が刻まれており、その苦難の歴史を知る上で重要です。

※写真は1962年（昭和37年）頃のワイトゥイ



農道開通に尽力した人々
（開通当時）

内間・平安名の概要

UCHIMA・HENNA

内間 —UCHIMA—

勝連内間は、西は平安名、東は平安敷屋に接しています。1726年に南風原村と村落移動を争って敗れ、現在の地に移動したと伝えられています。その後、1788年に再び、古島に移動を願い出て許可されましたが、現在の地にとどまっています。土地が狭いため、他市町村への人口の流出があり、1950年に石垣島へ16戸（60人）が集団移住しています。毎年、旧暦の6月に馬場において綱挽きが行われています。



平安名 —HENNA—

勝連平安名は、勝連地区の中心部に位置し、北は与那城に接し、東隣は道一つ隔てて、内間に接しています。集落の南西を県道8号線が東西に通り、路線バスをはじめ交通の幹線になっています。また、古い歌に「村のまざさや平安名村」と謡われ、旧勝連町の中心地にもなっていました。昔から平安名の人々の気質を表現して「平安名ザークバイ」（座席配り）という言葉があり、集会や招宴で上席や少し目立つ所を避け、席を譲り合うことを指していると言われています。

INFORMATION

勝連地区の位置

沖縄本島中部の東海岸、中城湾と金武湾の間にある勝連半島の南西半分と浜比嘉島、浮原島、南浮原島、津堅島からなります。



勝連地区の歴史

先史時代の遺跡は51カ所確認されています。遺跡は半島側では南側に多く、津堅島では海岸部に点在、浜比嘉島には洞穴内遺跡が多くあります。勝連城10代目・阿麻和利の時代になると勝連は最盛期を迎えます。徳之島や奄美大島、さらに中国や朝鮮との交流も盛んに行われていましたが、中城城主・護佐丸と争いがあり、後に中山軍に滅ぼされました。勝連間切は明治41年に市町村制の施行で勝連村となり、1980年に町制に移行しました。2005年には4市町会議により、うるま市となりました。



沖縄県うるま市教育委員会

〒904-2226 沖縄県うるま市宇仲嶺175

TEL. (098) 973-4400

うるま市
文化財シリーズ 12



内間 UCHIMA・HENNA 平安名



沖縄県うるま市教育委員会

WAI





内間・平安名の文化財



井泉

- 1 平安名ガー (ウフガー)
- 2 ウブガー
- 3 ムートガー
- 4 ウーブガー
- 5 ヒドゥンガー (比殿)
- 6 内間古島ガー
- 7 小舎覇カー
- 8 白川
- 9 角川
- 10 東ガー

民俗文化財・その他文化財

- 1 中門墓
- 2 ワイトゥイ (市指定)
- 3 フトキントゥ
- 4 ナーテラ
- 5 平安名ノ口殿内
- 6 五穀の宮
- 7 平安名の龕屋
- 8 シキン御嶽
- 9 ウーブ御嶽
- 10 内間の龕屋
- 11 内間のホウヤー木跡
- 12 村屋跡
- 13 馬場跡
- 14 村神
- 15 上新垣御神屋
- 16 小舎覇門中の御嶽
- 17 仲吉門中の御嶽
- 18 浜殿内の京判墓

遺跡

- 1 平安名上グスク
- 2 平安名貝塚 (県指定)
- 3 平安名貝塚A地点
- 4 平安名第三貝塚
- 5 フニグスク
- 6 平安名第二貝塚
- 7 幸地原貝塚
- 8 内間貝塚
- 9 内間集落内遺跡

- 印は民俗文化財・その他の文化財
- 印は遺跡
- 印は井泉



平安名のウメイ・クエーナ (市指定/無形民俗文化財)

勝連平安名のウメイやクエーナは、旧正月三日の年頭祈願、七年ごとの神元拝みなど、パーパーターシンカやノ口、神人達によって謡い継がれた古謡です。それらの古謡は、36曲にもものぼり、現在では、パーパーターシンカ十数名で謡われています。節入りは、決して単調なものではなく、古典芸能の大筋にも匹敵するような複雑な節が入っています。このように、勝連平安名には他地域では、謡われることの少なかった古謡が数多くパーパーターシンカによって村の祭祀・生活の中でしっかり伝承され、貴重です。



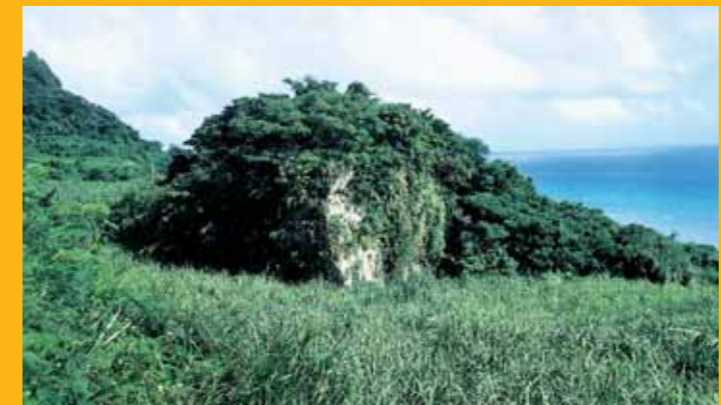
8 白川

白川は、内間村のウブガーになっています。正月、二月・六月ウマチーの時、神人が身を清める井泉でもありました。



平安名エイサー

平安名エイサーの入場(入羽)は、「われら青年今年もお盆の踊り始まる村の広場で老いも若きも…」という歌詞をつけた「秋の踊り」の曲に乗せて始まります。この歌は、約50年前に当時の青年会が創作した独特なもので、今日でも生き生きと歌い継がれています。コッケイ踊りは、村の古老にふんし、入場する際に左手を腰に当てながら、センスル節のリズムに合わせて入場します。歌詞は、古老たちから見た自分達の集落や世相をユーモラスに風刺したもので、滑稽な容姿・激しい踊りで表現します。そして村の繁栄と世の中の幸福を祈りながら「村の青年達よ、早く出てこい。我々年寄りも遊び(踊り)は好きだからお互いに踊りあかそう」という歌い文句で終わり、退場し、エイサーが始まります。



2 平安名貝塚

平安名集落西方約400mの斜面地にある沖縄貝塚時代前期(約3500~2500年前)の貝塚です。中城湾を見下ろす標高約40mの斜面地に形成され、琉球石灰岩の間や岩陰に遺物を含んだ黒色の堆積層があります。1955年に発見され、発掘調査が行われました。狹堂式・大山式土器のほか、櫛目状の文様を有する平安名式土器も出土しています。さらに、石斧、骨製品、貝製品なども発見されています。

9 ウーブ御嶽

ウーブ御嶽は、琉球国由来記に「オウブノ嶽イシツカサノ御イベ」とあります。戦前は、与勝富士と親しまれていた奥武山にあったと伝えられています。伝説では、奥武山には、シンニン(千人)ガマと呼ばれる無数の古墓があり、シンニンガマの神様が住んでいたと伝えられています。

11 内間のホウヤー木



11 内間のホウヤー木跡

内間のホウヤー木は、内間村の歴史を語る貴重な古木でした。18世紀の終わり頃、内間村が与那城交差点の山側にある古島原から、現在地に移動した時に植えられたと伝えられています。村のウステークにも、内間這うや木め 枝むちめ美らさ 内間みやらびぬ 身持ち美らさ 残念ながら平成8年の台風により、倒れてしまいました。



13 馬場跡

内間の馬場は、現在の与那城小学校にあった「北馬場」に対して、「南馬場」といわれていました。民話によると、この馬場で豊年を祈願するアプンハレーのとき、馬ハラセー(競馬)を開催し、他地域からもいい馬が集まったといわれています。

8 内間貝塚

中城湾に面する丘陵斜面の中腹(標高約30m~60m)に形成された、沖縄貝塚時代前期~中期の貝塚です。1955年に高元政秀氏によって、発見されました。採石により部分的に破壊されています。



1 平安名ガー (ウフガー)

勝連平安名の村ガーで、前面に5m×5mの洗い場があります。ウフガーとも呼ぶように、地区内では規模が一番大きい井泉です。伝説では、平安名主が、このカーを開いたと伝えられています。



5 ヒドゥンガー (比殿)

ヒドゥンガーは、石灰岩の崖下1m位の半円形状の水面から流水しています。現在はコンクリート製の貯水タンクが設置され、農業用水に利用されており、水量は勝連半島随一です。伝説では、ウーブ御嶽シンニンガマの神様が、このカーを利用したと伝えられています。

